

# 沖縄県知事選挙



## 翁長知事の遺志に応え、「オール沖縄」玉城デニーさん 支援を!



8月29日那覇市内で玉城デニーさんは、県知事選挙出馬表明の記者会見をおこないました。玉城さんは、翁長知事を先頭とする民意を無視して辺野古新基地建設を強行する安倍政権に対して「主権国家としてこれで良いのか」と憤りながら、「翁長知事の埋め立て承認撤回を断固支持する」「自分は保守・中道だ。しかし、翁長さんの遺志をしっかり引き継いでいく」と不屈の県民の先頭に立って知事選をたたかい、抜く決意を表明しました。



故・翁長知事二男  
翁長 雄治  
(那覇市議)

オール沖縄」はウチナンチュの強い決意であり、覚悟です。父に、辺野古新基地が止められたと報告できるように、頑張りましょう。  
(8月11日県民大会のあいさつ)

沖縄県知事選挙が9月13日告示、30日投票でたたかわれます。翁長雄志知事の遺志に応え、「建白書」実現の先頭に立つオール沖縄の代表玉城デニーさんを必ず勝利させましょう。

この県知事選挙は、沖縄と日本の命運にかかわる重大な意義を持つ歴史的なたかいです。

8月31日、沖縄県は、翁長雄志県知事の指示を踏まえ前知事がおこなった埋め立て承認を「撤回」。

故翁長知事は、病に倒れ死を覚悟したその瞬間まで、辺野古に新基地はつくらせないために命をかけてたたかいました。

8月11日の「土砂投入をゆるさず、ジュゴン・サンゴの海を守る県民大会」は大雨の中7万人の県民が参加し、翁長知事への追悼の集会となりました。

沖縄県知事選挙は、沖縄県民の民意を踏みにじって新基地建設を推し進める安倍政権とこれ以上の基地負担を拒否し誇りある平和で豊かな沖縄を求めるオール沖縄とのたたかいです。

革新・愛知の会は、8月23日開催の代表世話人会で、沖縄県知事選挙支援の取り組みを論議し、アピールを出して支援を呼びかけることを決めました。

8月11日の「土砂投入をゆるさず、ジュゴン・サンゴの海を守る県民大会」は大雨の中7万人の県民が参加し、翁長知事への追悼の集会となりました。

○沖縄県知事選挙支援募金を呼びかけましょう。

革新・愛知の会は、9月21日から23日まで沖縄県知事選挙現地支援に行きます。

9月19日(水) 午後4時30分から5時30分まで金山総合駅北口(アスナル金山側)で安倍政権退陣! 沖縄県知事選挙勝利! 緊急街頭宣伝を行います。各地でも! 岡崎革新の会、中川革新なども計画されています。



8/25 緑区 沖縄連帯のつどい

自公の佐喜真淳候補は日本会議を送り込んだ候補、菅大問返還を繰り返す叫び、辺野古撤回もあり得るような発言をおおすなど、巧妙な作戦に出ていることで非常に厳しい情勢を伝え、ぜひ支援を結びました。

つどいには、全員23人が参加。米軍基地の苦悩を押し付けられている沖縄の現状を訴え、知事選挙で玉城デニーさん勝利のために支援していくことを確認しました。(文責 西村秀一)

### 沖縄連帯のつどい 緑平民懇

8月25日(土)に大高南コミュニティセンターにて平和・民主主義・くらしを守る緑区懇談会(みどり平民政懇)は、会員でもある具志堅邦子さんから「緊迫する沖縄、私たちのできることは!」を考える「沖縄連帯のつどい」を開催。

具志堅さんは、「辺野古ゲート前奇跡の1週間をつくろう」と、4月23日から28日までの6日間500人集中行動の呼びかけに応え参加、初日から700人で最終日は千五百人で完全にトラックの搬入を止めたと辺野古でのリアルな状況が語られ、保守政治家であった翁長さんが、「イデオロ

### 第8回代表世話人会(8/23)報告

#### 情勢懇談から

(1) アベ政治への批判、依然として高い  
モリ・カケ・日報を避けて、安倍内閣はカジノ合法化、働く者の労働法規を無きものとする(働かせ方改革)、参議院選挙での分区をなくして定数6増を強行した。世論は依然として厳しい。朝日新聞世論調査によれば3月から8月にかけて6カ月連続してアベ内閣不支持が支持を上回っている。モリ・カケでの安倍首相への疑惑は「晴れていない」が83%(自民党支持者でも70%) (朝日新聞5月調)。県内でもカジノの動き。

(2) 総裁選で「改憲発動」を強く主張——通常国会が終わり、自民党総裁選挙に向けて改憲発議——強い安倍首相の執念。「これがラストチャンス」と日本会議が安倍首相の背を押している。ウソ・立憲主義無視の安倍首相だから、何をやってくるかわからない。

(3) 3000万署名、再スタート——9月30日第4次集約、のうえ、10月、11月に3000万署名を達成することで、安倍改憲発議を阻止する。いま、全国で1500万筆、県内68万筆、達成。取り組みを分析してさらに対話、全戸訪問を行うことが求められる。

(4) 翁長知事死去・玉城デニー氏への遺言——政府が辺野古への土砂投入強行する時、翁長知事が亡くなった。オール沖縄で玉城デニー衆議院議員が候補者に。ここで勝つことは歴史的意義がある。

#### 今後の取り組み

(1) 10・30講演と文化のタベ——情勢の論議を受けて、企画充実、チケットの普及について代表世話人会、地域・職場事務室長が推進役を担う。

(2) 3000万署名の達成をめざす——全国共同センターは9月15日、学習交流会を行う。守山・緑・南区なども再スタートのための会議を行った、行う予定。情勢、意義をつかみ直して、新しい動きをつくる。

(3) 沖縄県知事選挙支援を愛知でも——9月30日、沖縄県知事選が行われることに。革新・愛知の会としてもアピールを出す。全国革新懇の呼びかけに、9月21日~23日支援と沖縄知事選挙勝利のカンパを呼び掛ける。

次回の代表世話人会は9月19日(木)14時~

と考えている人が過半数です。また、どんな世論調査でも憲法改正への有権者の関心は低い。「これだけ暮らして苦しいのに、時間も体力も使ってわざわざ憲法を変える必要はない」というのが、大方の意見だと思えます。「憲法をやる必要がある」と言っているのは、結局安倍さんだけなのではないか」ともいえると思います。これは、市民のまっとうで、「ふつう」の感覚です。

この「ふつう」の感覚に根ざせば、3000万署名は「絶対やる」と言っていました。今年のはじめには安倍さんというわけです。一部の首相側近議員からは、野党の合意がなくても発議をめざす。石破さんとの選挙で、圧倒的な勝利をおさめることとで与党内を納得させようというわけです。

くろ問題でそれも立ち消えになりました。安倍さんや安倍さんの側近のスケジューリングは大幅に狂っています。すくなくとも年内発議は考えられない状況です。これには、立憲野党の国会での頑張りも効果を発揮しました。安倍さんはいま、この状況を変えるために9月の総裁選を利用しようとしています。

すべきだという意見も出ており、予断をゆるしません。こうしたさまざまなかんじに野党が動揺してはなりません。先の通常国会で野党が結束して「安倍政権の下での憲法改正に反対する」と言ってきたからこそ、いまの状況があるわけです。その線を維持することが発議を止めるために大事です。

無党派5」に分けることができます。「保守3」の部分を握っているのはおもに自民党です。これが「保守二大政党論」がうまくいかない理由です。

古くは民社党、最近では維新、さらには希望がありました。かつて渡辺治さんが指摘したように「よくわからない新手の保守よりも自民党のほうが頼りがいがある」というわけで、結局「第二自民党」は長続きしません。「保守層に食い込まない」と選挙で負ける」とも言われますが、その根拠もあいまいなのです。

なお、小熊さんは、昨年の総選挙でもそれでも野党が負けてしまった理由を「こちやこちやしてよくわからなかったから」といっています。これは正論だと思います。シンプルな一致点と、シンプルな協力・共闘をつくれるかどうか。ここにカギがあります。

朝日新聞社が8月4、5日に実施した世論調査によれば、「野党の期待できない」と答えた人が8割にのぼりました。これも「こちやこちやしている」という印象の裏返しです。多くの人が野党のいっそうの協力を求めていると受け止めるべきでしょう。

おそらく、安倍政権の体質に根ざす問題はこれからも出てくると思います。森友問題・加計問題に匹敵する問題が表に出てくるかもしれません。そのときに、野党が一致点をもとに共闘できる態勢をつくれるように励ましていく。これが大事だともいえます。(2018年8月7日)